

CASBEE-建築(新築)2016年版
日野町立義務教育学校建設工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.9
Q1 室内環境							0.40			3.2
1 音環境						3.2	0.15	-	-	3.2
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	-	
1 室内騒音レベル						-	-	-	-	
2 設備騒音対策						-	-	-	-	
1.2 遮音						3.6	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		遮音等級T-2のガラスを採用。				5.0	0.30	3.0	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.30	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	0.20	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	0.20	3.0	-	
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境						2.6	0.35	-	-	2.6
2.1 室温制御						3.0	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.60	3.0	-	
2 負荷変動・追従制御性						-	-	-	-	
2 外皮性能						3.0	0.40	3.0	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	-	-	-	
5 温度・湿度制御						-	-	-	-	
6 個別制御						-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮						-	-	-	-	
8 監視システム						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	-	
2.3 空調方式						-	-	-	-	
1 上下温度差						-	-	-	-	
2 平均気流速度						-	-	-	-	
3 光・視環境						3.7	0.25	-	-	3.7
3.1 昼光利用						4.6	0.30	-	-	
1 昼光率		昼光率2.5%以上				5.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口						-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		昇降口棟にトップライトを採用。				4.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策						4.0	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア						-	-	-	-	
1 屋光制御		カーテン・庇によりグレアを制御。				4.0	1.00	3.0	-	
2 映り込み対策						-	-	-	-	
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	-	
1 照度						-	-	-	-	
2 照度均斉度						-	-	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境						3.6	0.25	-	-	3.6
4.1 発生源対策						4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		建築材料は、規制対象外の建材及びJIS規格のF☆☆☆☆を採用。				4.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策						-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等						-	-	-	-	
4 レジオネラ対策						-	-	-	-	
4.2 換気						2.6	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上。				4.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.33	3.0	-	
4 給気計画						-	-	-	-	
4.3 運用管理						4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		健康増進法に基づき、屋内は完全禁煙。				5.0	0.50	-	-	

Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	3.1
1 機能性			3.3	0.40	-	-	3.3
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	-	-	
	1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-	
	2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-	
	3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性			3.0	0.30	-	-	
	1 広さ感・景観	主要な教室の天井高は2.7mを超えている。	5.0	0.50	3.0	-	
	2 広さ感・景観		100.0	-	-	-	
	2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	
	3 内装計画		1.0	0.50	-	-	
	5 知的生産性向上の取組み		100.0	-	-	-	
1.3 維持管理			4.0	0.30	-	-	
	1 維持管理に配慮した設計	評価する取組みが7つ。	4.0	0.50	-	-	
	2 維持管理用機能の確保	耐用年数の長い配管材の採用。	4.0	0.50	-	-	
	3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性			3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-	
	1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
	2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.2	0.30	-	-	
	1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
	4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
	5 空調・給排水配管の更新必要間隔	耐震クラスA。	5.0	0.20	-	-	
	6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.3 適切な更新			-	-	-	-	
	1 屋上(屋根)・外壁仕上げ材の更		3.0	-	-	-	
	2 配管・配線材の更新		3.0	-	-	-	
	3 主用設備機器の更新		3.0	-	-	-	
2.4 信頼性			3.0	0.20	-	-	
	1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.1	0.30	-	-	3.1
3.1 空間のゆとり			3.6	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	階高3.78m。	4.0	0.60	3.0	-	
	2 空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
1 豊かな室外環境			-	-	-	-	-
	1.1 知的生産性向上の取組み		100.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱性能の高い建材の採用。	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
			-	-	-	-	
			-	-	-	-	
			-	-	-	-	
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.63	4.7	0.50	-	-	4.7
	集合住宅以外の評価(3a.3b)		-	-	-	-	
	集合住宅の評価(3e)		-	-	-	-	
	3-1 空調設備		-	-	-	-	
	3-2 換気設備		-	-	-	-	
	3-3 照明設備		-	-	-	-	
	3-4 給湯設備		-	-	-	-	
	3-5 昇降機設備		-	-	-	-	
	3-6 エネルギー利用効率化設備		-	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング		3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		3.0	-	-	-	

LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓等、節水型便器を全体器具・水栓の半分以上採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1		雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
2		雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生クラッシュラン(砂利)	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		GL工法の採用。	4.0	0.20	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			-	-	-	-	
1		躯体のリサイクル・リユース	5.0	-	-	-	
2		屋根材のリサイクル・リユース	4.0	-	-	-	
3		外壁材のリサイクル・リユース	4.0	-	-	-	
4		内装材のリサイクル・リユース	4.0	-	-	-	
5		設備機器のリサイクル・リユース	5.0	-	-	-	
6		外構資材のリユース	5.0	-	-	-	
2.7 廃棄物発生量の最小化			5.0	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1		消火剤	-	-	-	-	
2		発泡剤(断熱材等)	4.0	0.50	-	-	
3		冷媒	3.0	0.50	-	-	
ODP=0、GWP=50未満の断熱材を採用。			4.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		高効率な設備機器を採用し、CO2を低減。	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
2.1 大気汚染防止		増築部分では燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1		雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
2		汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
3		交通負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
4		廃棄物処理負荷抑制	2.0	0.25	-	-	
2.1 廃棄物処理負荷抑制			100.0	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1		騒音	3.0	1.00	-	-	
2		振動	-	-	-	-	
3		悪臭	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1		風害の抑制	3.0	0.60	-	-	
2		砂塵の抑制	3.0	0.20	-	-	
3		日照障害の抑制	3.0	0.20	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70	-	-	
2		屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	